

# 学部・附属共同プロジェクト 2026年度 教育相談カレンダー

山口大学教育学部附属学校5校の先生方に、教育相談についてアンケート調査を実施しました。調査にご協力いただきました附属学校の校長先生、先生方に心より感謝申し上げます。

回答いただいた中から、カレンダー表面には、教育相談のヒントやホッとするような言葉をカレンダーの横に記載しています。また、カレンダー裏面には、調査結果をまとめたものの一部を載せています（自由記述で回答いただいたものは、文章を載せています。選択式で回答いただいたものは、グラフにしています）。今後の先生方の教育相談にご活用いただけますと幸いです。

調査内容：教育相談の工夫や心がけていること、教育相談で難しいこと、  
教育相談力をどのように身に付けてきたか、教育相談で大切だと思うこと

カレンダー作成者：

山口大学教育学部（春日由美・佐竹圭介・長谷和久・田中亜矢巳）

山口大学教育学部附属学校教育相談担当

（河野真弘・小林咲絵・廣石千紘・松村帆乃香・森田歩香）

（本研究は山口大学教育学部の学部・附属共同プロジェクトの助成により行われました。）

お問い合わせ先：教育学部 春日由美

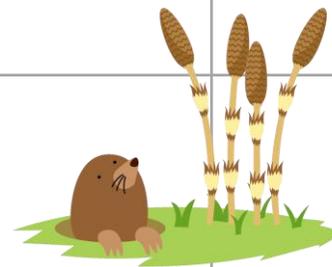
Email: kasuga@yamaguchi-u.ac.jp



2026  
4月



月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			



教育相談での「工夫」や「心がけていること」  
「普段からちよっとした会話を児童とするようにしています。」「昨日の試合どうだった?」「明日ピアノの発表会なんだってね、がんばって」など。」  
「教育相談で「大切にしていること」「大切だと思ふこと」  
「一回で解決しなくても、心が開いていけばいい  
ということを意識しています。」

# 教育相談力をどのように身に着けたか①

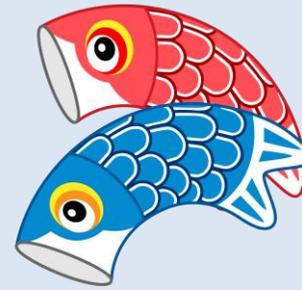
## 先輩の存在

やはり、身近な先輩の存在は大きいようです。



- 生徒と1対1ではなく、複数の教員で対応した時に「こういう言い方もあるんだな」と思うことがある。
- 上手に教育相談を進めていかれる先生方の様子を見ながら学んできました。
- 学校の不登校傾向生徒や悩みを抱える生徒との対応に関わる中で先輩の先生方の対応等を見て学ぶことができました。
- 同僚の先生方の児童との関わり方を見て、力をつけてきたと思う。
- 先輩の姿やアドバイスから学んだことが大きかった。
- 他の先生方に相談すること。
- 初任校の生徒指導主任が実際に行っていたところを見せてもらっていた。
- 初任校での同学年の主任の先生と一緒に児童の話聞くことがあり、その先生の児童への接し方、質問の仕方が大変参考になった。しかし、いまだに自信はついていない。
- 前任者の担当児童ファイルの記録を見て、方法や話題などの進め方が参考になった。
- 先輩教員とともに行った教育相談
- 初任や、臨採時代に学年主任の子どもへのアプローチや保護者対応など、実際に横で見て学んでいた。どんな言葉で子どもが話しはじめるのか、など。
- 一往復半の会話のやり取りの意味を、その当時の校長から聞いて実践するようになってから、子どもとの会話が楽しくなり、子どももよく話してくるようになったような気がする。
- 若かりし時、管理職が保護者とのやりとりの中で、心情をうまく引き出していました。そのやりとりを見て、教育相談力を向上させる必要があると感じ、様々な書籍を読みました。

2026  
5月



月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



「教育相談の力をどのようにつけたか  
初任のときから主任や教頭とともに教育相談の流れを  
確認するようにはしてきた。  
まだ身についていたとは言えないので今後とも共有しながら  
取り組んでいく。」

# 教育相談力をどのように身に着けたか②



## 具体的経験

日々、試行錯誤する経験が資質向上につながるのかもしれませんが。

- ・ 児童生徒との関わりを通して、理論だけでなく実際の場で相手の話を丁寧に聞くことで教育相談力が身につけてきたのではないかと思います。
- ・ 保護者対応の積み重ねで、類似事例の経験が深まると、相手の気持ちの読み取りや、今後の展開が予想できるようになってきた。しかし、自信は未だにない。
- ・ 自分自身、少し自信がついたのは学年生徒指導として、生徒や保護者と関わる経験が増えてから。経験を積み、感謝されたり、失敗したりするなかで少しずつノウハウが身につけてきたように思います。
- ・ 現在、教育相談力を高めようとしている段階ではありますが、傾聴の仕方と相談時の環境構成を検討することで、徐々に高まっている（との評価になっている）と感じます。
- ・ 規律や同一歩調を強いられ、それがよいと思って教育に携わってきた経験が、少し違うのではないかと感じました。子どもの話をしっかり聞く、一緒に遊ぶということがこういうことなのだと分かりました。
- ・ 実際に教育相談をする中で、子どもたちの様子から学ぶことは多いです。生徒に対してまっすぐ向き合えば、教育相談は日頃から、毎日行われるものだと思います。生徒との教育相談を通して教育相談の力を身につけさせてもらっていると思います。
- ・ 35人学級を担任してから、元気な子どもと近寄ってきてくれる子どもとしか関わっていないことに気づいた。
- ・ 担任を持った時に、積極的に生徒の話を聞き、悩みが出たら勝負を何度もしていくことを積み重ねてきたことで身に付けた。今たまたま教育相談は得意分野です。

2026  
6月



月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					



「**教育相談の力をどのよう**に身につけたか  
「自分も子どものころ同じような経験をしたことが  
あったかな？を考え、自分がそんなとき  
どんな言葉をかけてもらえたら嬉しいか、  
安心するかを自分のことのように考えると、  
気持ちに寄り添いやすいような気がした。」

# 教育相談力をどのように身に着けたか③

## 失敗経験・個人的

失敗するのは、子どもたちにきちんと向き合っているからかもしれません。



「失敗しても、生徒と関わり続ける。」

「自分で経験する。時に失敗する。」

「たくさんの失敗。」

「関わった生徒がふえてきて、こうした方がよかったという後悔から」

「過去の人生経験が一番役立っていると思う。」

「自分も子どものころ同じような経験をしたことがあったかな？を考え、自分がそんなときどんな言葉をかけてもらえたら嬉しいか、安心するかを自分のことのように考えると、気持ちに寄り添いやすいような気がした。」

2026  
7月



月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

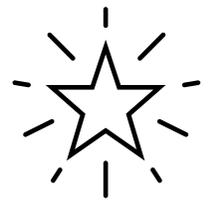


「教育相談での「工夫」や「心がけていること」  
「教員間では、雑談を交えた日常的な情報共有を意識して  
います。また、児童に関して、発言する内容や行動、  
対人関係や接し方など、気になることがあればその場、  
もしくは、個別に呼び出して話をしっかりとすること  
意識しています。「これくらいいいか」というのをできる  
だけ無いようにしています。」

本カレンダーは、山口大学教育学部「2025年度学部・附属共同プロジェクト」の助成を受けて作成しました。

# 教育相談力をどのように身に着けたか④

## 心がけ・意識



自分の中に自分なりの軸や指針を持つことで、資質が高まっていくのかもしれませんが。

「子どもの心を知りたいと思ったことから」

「生徒指導について考えたりすることを通して、子どもの人権を守りながら指導をすることを心掛け始めてから。」

「傾聴の姿勢の中で、子どものできることやできそうなことから解決の視点を見出すこと。」

「普段の学校生活の中で、子ども達と適宜コミュニケーションを図ることが大切だと分かったとき。」

「自分の教育相談の実践を省察する。対応事案が一段落ついたときに、『あの対応はよかったな』『あそこはこうした方がよかったな』などと振り返る。」

2026  
8月



月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30 

**教育相談の力がどのよう**に身についたか  
「初任者の時、クラスでいじめの問題が起こり、その対応に大変な労力を費やした。きっかけは、自分の「これくらい、いいか」という考えからの指導の怠慢であったと確信している。その経験を基に、「安定したクラスづくり」を目標に、積極的に先輩教員と関わり、クラス経営のアドバイスをもらうことが多くなった。そこから、広い視野を意識すること、子どもの言動に対して必要であればすぐに指導、子どもとの関係づくりを日々意識している。」

# 教育相談の工夫① 日常的工夫



先生方は日常的に積極的な工夫をされているようでした。

## 関係づくり・良さを共有する

「問題が起こる前には生徒の良いところを褒めて関わり、一緒に遊ぶことで信頼関係を築いています。」「毎日一人ひとりに声をかけ、話しやすい環境を整える。」「些細なことでも積極的に認め、自己肯定感を高められるように声をかける。」

## 日常の関わり

「児童の些細な変化に気づくことができるよう、外遊びや休み時間雄かかわりを大切にしている。」「生徒の表情や変化に気づけるように気をつけ、こまめに声掛けを行う。」

## 日常の環境づくり

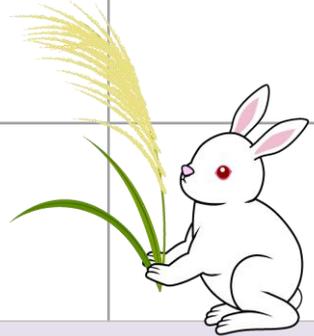
「一人ひとりが安心して過ごすことができるように、いつも笑顔で過ごす。」「自分だけではなく、他の先生にも相談できるということを伝えるようにする。」

## 早期の声掛け

「日頃の生活の中で、少し表情や行動がいつもと違う時には、こちらから話しかけています。」「経過を見ていく場合もタイミングを見ながら声かけをするようにしている。」

2026  
9月



月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

「**教育相談の力をどのよう**に身につけたか  
「尊敬する先生との出会い。文字に起こしたり、  
絵に描いたりしながら、子どもの話を整理しながら  
話を聴いているのを見て、真似ようと思いました。  
身についたとは思ってはいません。」

本カレンダーは、山口大学教育学部「2025年度学部・附属共同プロジェクト」の助成を受けて作成しました。

# 教育相談の工夫② 相談の時の工夫



面談の際の工夫も、たくさんのバリエーションがありました。

**話しやすい工夫**（本題よりも、興味のあることや最近のブームなど、一見関係のなさそうな内容をたくさん出す／ひとつの話題から広げて話を聴くことを大切にしている／落ち着いた話せる環境）

**時間・内容の均等**（教育相談習慣では、全員時間を統一して悩み多き生徒は別に時間を設ける／基本の質問内容は全員同じことを質問するようにし、気になることがあれば個別に質問内容を加える）

**非言語への意識**（教育相談中は児童の非言語に気を配っています／笑顔／表情は柔らかく／なかなか打ち解けてくれない場合は視線を合わさず同じ方向を向くなどする）

**言語的工夫**（自分の思いを伝える「アイメッセージ」を使っている／自己開示をして、相手も自分のことを開示しやすいようにしています。）

**自己決定**（すぐに解決策を伝えるのではなく、本人がどうしたいのかをしっかりと聞くようにする／すぐに結論やアドバイスをせず、自分がどうしたいかを一緒に考える）

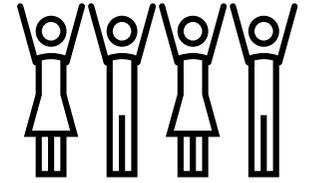
2026  
10月



月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

教育相談の力をどのようになにつけたか  
「生徒と1対1ではなく、複数の教員で対応した時に  
「こういう言い方もあるんだな」と思うことがある。」  
教育相談で「大切にしていること」「大切だと思うこと」  
「結論を急がないということ。相談した内容は、必ず同僚に  
共有すること。」

# 教育相談の工夫③ 同僚・保護者との協働



同僚・保護者との協働も、いろいろな工夫がありました。

## 【同僚との協働】

「雑談を交えた日常的な情報共有を意識しています。」

「教員間で気になることを声に出して情報共有する。」

「気になる子はいろいろな教科の先生から情報を聞く。」

「重大事案に発展しそうだなという場合は、管理職や生徒指導主任に報告・連絡・相談を行い、事案を一人で抱え込まないようにする。」

「以前に話題にあがった生徒について、その後の様子がどうか 観察したり情報交換したりする。」

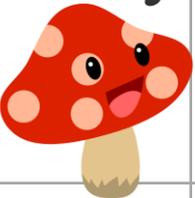
## 【保護者との協働】

「保護者と一緒に成長を支える意識を持つようにしている。」

「保護者の視点に立ち、保護者と本人の双方に配慮した話し方をする。保護者の思いにも耳を傾ける。」

2026  
11月



月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29



「教育相談の力をどのようにつけたか  
「自分自身、少し自信がついたのは  
学年生徒指導として、生徒や保護者と関わる経験が  
増えてから。経験を積み、感謝されたり、  
失敗したりするなかで少しずつノウハウが  
身についてきたように思います。」

# 教育相談で難しいこと① 子どもとの難しさ

子どものことを大切思うからこそ、子どもへの難しさを感じるのかもしれませんが。



**表出が難しい場合**（自分の感情や考えを表現することが難しい児童生徒の対応／本人がうまく言語化できない時に難しいと感じる）

**困り感がない場合**（まだ関係ができていない児童との教育相談は、「ない」と返されることが多いと感じる。そこを掘り下げるのが難しい／周囲の人は心配しているが、本人に全く困り感がない時）

**一対一の雰囲気**（あらたまって話すのを苦手とする子が増えているように感じる／集団で話すときはよくしゃべる子でも、一対一になるとなかなか話さなくなる時です。どのようにして話しやすくできるかと考えます）

**信頼関係**（信頼関係がまだ構築できていない時の相談は難しい／自分のことをなかなか話さない子に、どう心を開かせるか）

**個々に応じた対応**（高学年の児童との関わり、声のかけ方／生徒一人ひとり、考えや気持ちの捉え方が違うので、その場面場面により、対応をよく考える必要があること）

**声掛け**（人それぞれの価値観がある中で、その生徒にあった声かけや回答の仕方が難しい／マイナスな発言がたくさんあったとき、どんな言葉かけをしてあげるのが正解なのか分からない）

2026  
12月



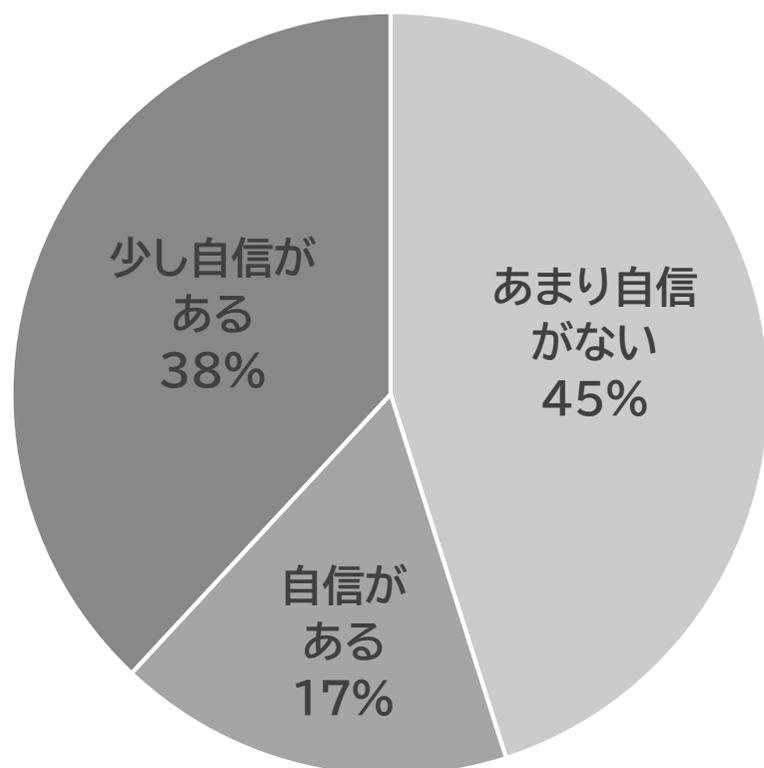
月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

「教育相談での「工夫」や「心がけていること」  
「子どもの気持ち（どうしたいか、どうなりたいか、  
今どんな気持ちなのか等）を聴けるよう、  
静かに問いかけたり、絵に描いたりしています。」

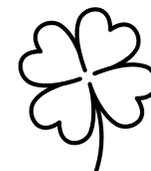
本カレンダーは、山口大学教育学部「2025年度学部・附属共同プロジェクト」の助成を受けて作成しました。

## 【教育相談への自信】

- ・教育相談への自信を尋ねたところ、「あまり自信がない」という回答が最も多くなりました。
- ・自信がないと思うこと自体、珍しくないのかもしれませんが。



## 教育相談で難しいこと② 自分自身が感じる難しさ



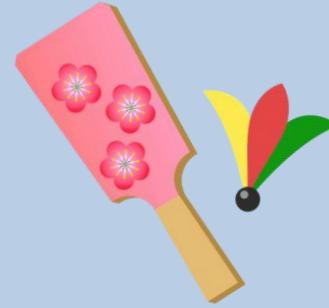
**確信のなさ**（本心を話せているのか分からない時がある／どこまで心を開いて話をしてくれているのか不安になる）

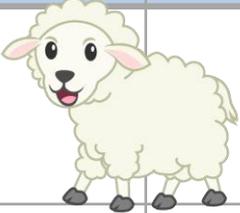
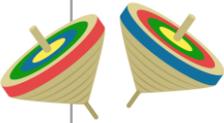
**ジレンマ**（相談したことを他の人や、当該生徒に言わないでほしいといわれた時に、どう解決していか悩む）

**待てなさ**（アドバイス感が強く出てしまうこと／気にしなくていいなど、こうしたらいいのにとつい言ってしまいそうになること）

**目標の見えなさ**（明確なゴールが見つからない時／解決できなかったりゴールが見えないものだったりすると難しさを感じる）

2027  
1月



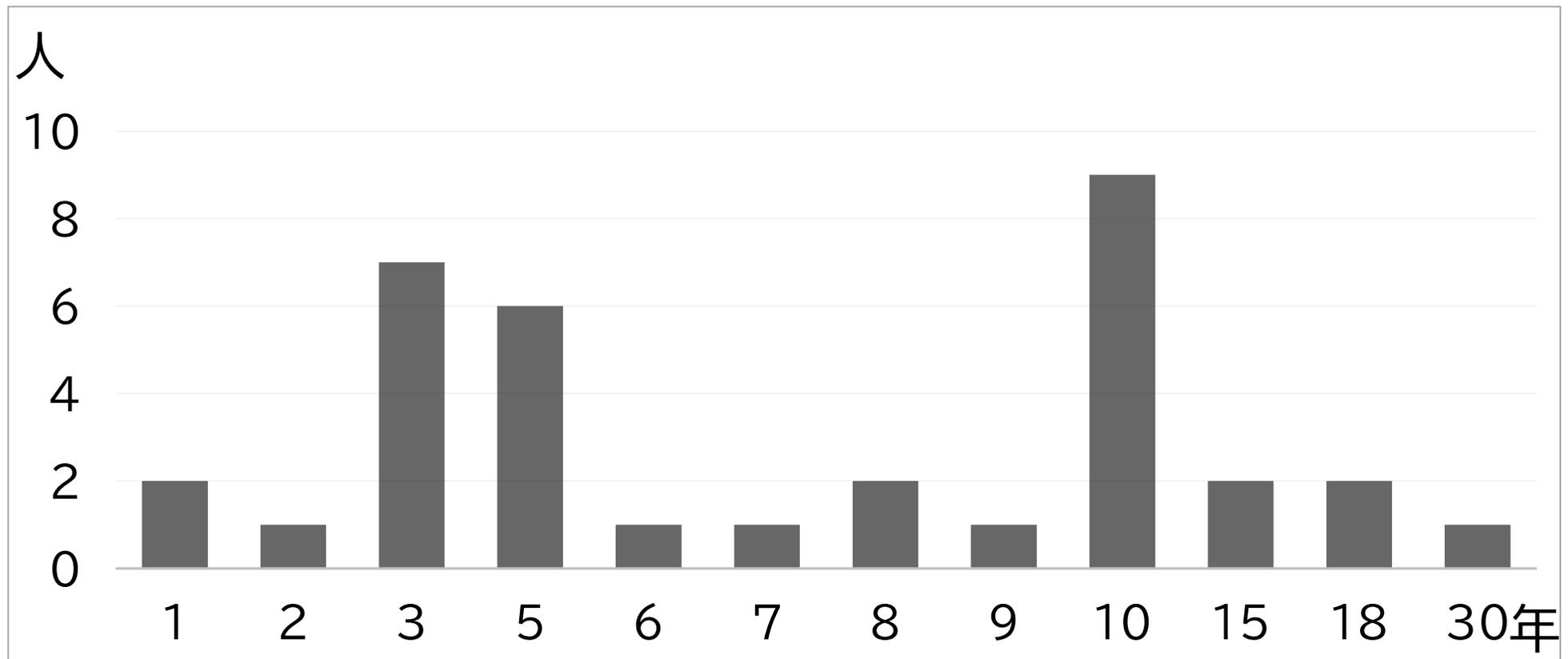
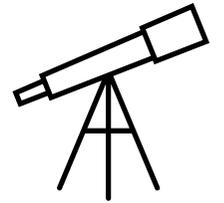
月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



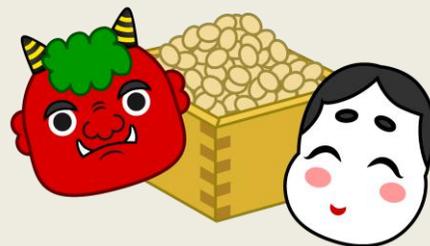
「教育相談での「工夫」や「心がけていること」  
「なかなか打ち明けてくれない場合は  
自分（教員）の弱い部分をさらけ出すようにしたり、  
目線を合わせず同じ方向を向くなどする。」

# 教職何年目で教育相談の自信がついたと感じたか

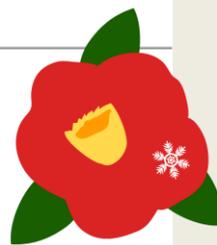
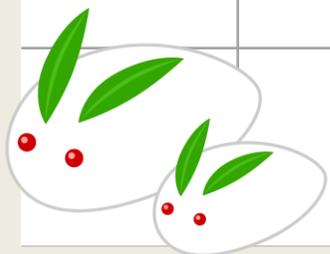
- ・教育相談の自信があるかどうかについて、「自信がある」「少し自信がある」と回答された先生に、何年ごろから自信がついたと感じるようになったかをお尋ねしました。
- ・慣れてきた3～5年目と、いろいろな経験を積んだ10年目が自信がついたと思うことが多いのかもしれませんが。



2027  
2月



月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28



教育相談の力をどのようにつけたか  
「自身の経験の数。関わった生徒がふえてきて、  
こうした方がよかったという後悔から。」  
「初任時代の学年主任からの指導です。  
常に学年部で対応していたので、話の聞き方や  
タイミングなど、教えてもらいました。」

本カレンダーは、山口大学教育学部「2025年度学部・附属共同プロジェクト」の助成を受けて作成しました。

# 教育相談で大切なこと① カウンセリング的態度☀

傾聴、受容、共感など、カウンセリング的態度の記述が多かったです。



**傾聴**（生徒と一定の距離を保ちつつ、傾聴の姿勢を最優先にする／子どもが話したい時にしっかりと耳を傾ける／できるだけ生徒から話を始めるのを待つ／アドバイスをするのではなく、話したいこと、困っていることに耳を傾ける）

**受容**（生徒の思いを否定せず一旦話をすべてきくこと／しっかり相談相手の主訴を汲み取ること／子どもの思いを否定しない）

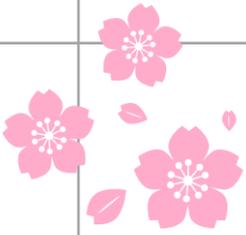
**共感**（自分が相手だったらと思うこと／どのような状況においても、「自分事で考える」というのが大切であると考え／共感し、話す立場の人の気持ちを考え受け止めること）

**寄り添い**（相手に寄り添った対応ができるよう心掛ける／児童や保護者に、寄り添ってもらえている、この先生は自分の悩みや困りごとを一緒に背負ってくれそうだという感覚をもってもらえるようにしたいと思っています）

**尊重**（相手を尊重する姿勢／子どもの人権を守ること／子どもと一緒に創り上げていくという意識をもって過ごすこと／子どもであっても教師であっても常に対等な関係を保っていくこと）

2027  
3月



月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

「**教育相談の力をどのようにつけたか**  
「さまざまな研修や書籍での学びはもちろんですが、  
実際に教育相談をする中で、子どもたちの様子  
から学ぶことは多いです。生徒に対してまっすぐ  
向き合えば、教育相談は日頃から、毎日行われる  
ものだと思ってます。生徒との教育相談を通して  
教育相談の力を身につけてもらっていると  
思います。」

# 教育相談で大切なこと② 自分の注意点／重視点



**決めつけない**（決めつけないこと／相手の話を、先入観を持たずフラットに、最後まで分かってもらうとして、聞くこと）

**焦らない**（結論を急がないということ／一回で解決しなくても、心が開いていけばいいということ意識している／急に事態は好転しないものだと思います、焦って解決に走らない）

**多面的理解**（生徒の環境や背景に配慮しながら取り組むこと／背景を探ろうとすること／様々な視点から生徒や事象を見る（アセスメントする）こと）

**根拠のある判断**（相談者が今すぐ解決したい問題を抱えているのか、それとも今は話すだけで良いのかという思いを聞く／根拠や意図のある対応を心がけています（自分の経験だけを頼りにしたり、思いつきで何かをしたりしない））

**長期的視点**（長期的な目線で考え、寄り添いつつも最後はゴールに到達できるように考えながら話を聞く）

**子ども主体**（子ども達と同じ目線を持ちなが、子どもの社会自立に向けて指導支援すること）